

経営比較分析表（令和元年度決算）

栃木県 宇都宮市

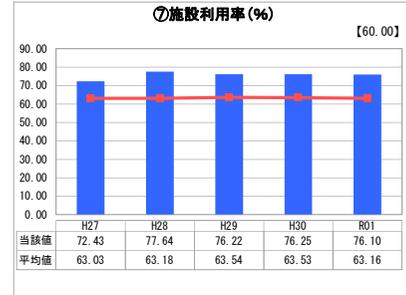
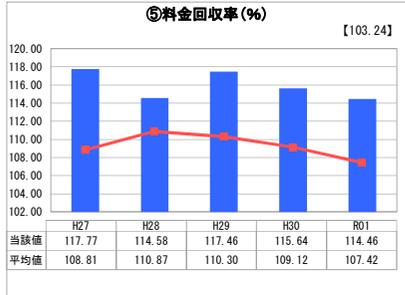
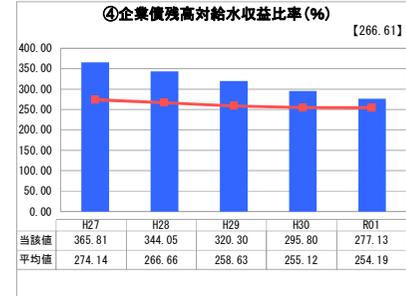
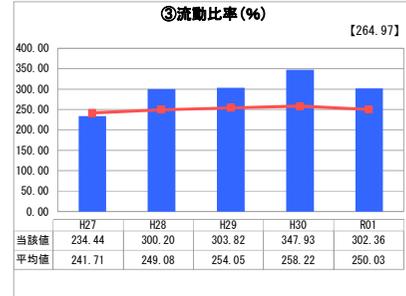
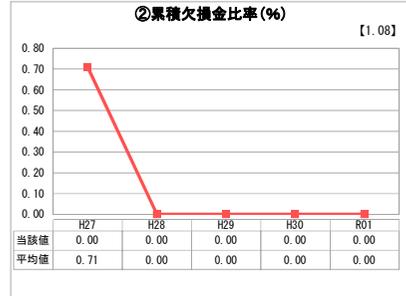
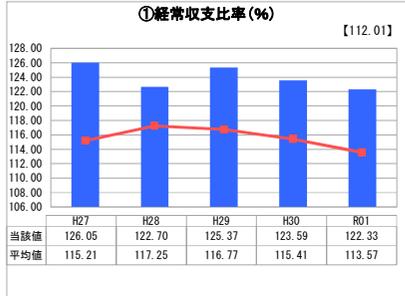
業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.42	97.49	2,860	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
521,754	416.85	1,251.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
507,355	355.18	1,428.44

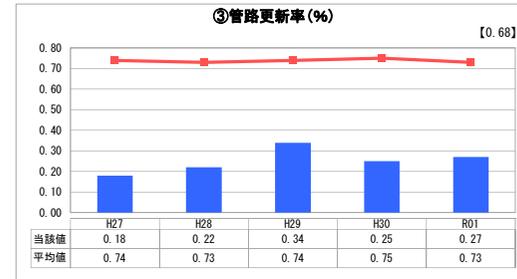
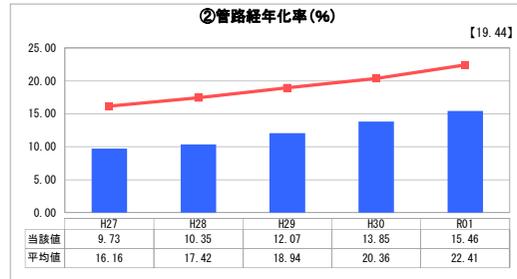
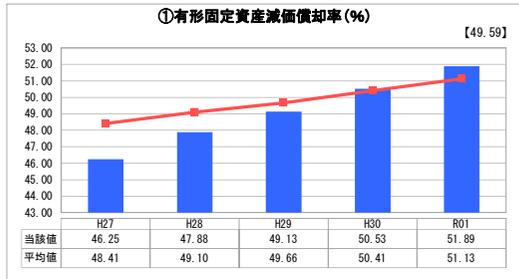
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」及び「⑤料金回収率」は、給水収益の減などに伴い前年度比でやや低下したが、いずれも100%を超えるとともに類似団体平均値を上回っている。これは、経常収益が伸び悩む中で経費の抑制に努めてきた結果である。

また、「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体の平均値を上回ってはいるが、企業債残高縮減の取組により、年々、改善傾向にある。

「⑧有収率」は、前年度比で低下したため、各種漏水対策を強化した。

以上のことから、本市の水道事業は、給水に係る費用が給水収益で賄えており、将来の施設の老朽化や耐震化に向けた資金となる利益を生んでいることから、類似団体と比較しても、健全な経営状態であると評価できる。また、有収率向上に向け、より一層漏水量縮減の取組を推進することが必要である。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、主要施設の経年化の進行により年々上昇を続けている。今後も、計画的に施設の更新を実施することで、この数値は改善される見込みである。

「②管路経年率」は、法定耐用年数を超えた管路の増加に伴い、年々上昇を続けているが、類似団体平均値を下回っており、現時点では類似団体と比較して法定耐用年数を超えた管路の割合は低いといえる。

また、「③管路更新率」についても、「②管路経年率」と同様、類似団体平均値を下回っている。

以上のことから、今後、施設や管路の経年化の進行が見込まれるため、引き続き、計画的に老朽化対策を実施していく必要がある。

全体総括

施設の効率的な維持管理などにより給水費用の抑制に努めるとともに、給水人口減少等の社会環境の変化に適合した将来的な施設の再構築などにより経営の健全化・効率化を図る。

また、漏水の一因である老朽化が進行する管路の更新や、施設の耐震化や更新投資に対し、今後長期間にわたり多額の資金を要することから、適切に企業債等を活用し、財政収支の整合を図りながら計画的に取り組む。